

## 3955 地球のcaおり (日本編) : 小さな秋・京都大原の里へ ③

今日の大原の里への道筋は、八瀬経由でなく、静原経由、江文峠越えを選択。

京都市内とは、少し気温が違ふ。しかし、日差しは強い。

そうした関係だろうか。稲穂を見ていると、順調に成長しているように見える。

その後、お百姓さんに今年の作柄を尋ねてみると、昨年の京都は台風で今一つだったとの事。

お話から、今年の作柄は、100 を越えるのではないか、というお話だった。



中には、学生さんの応援で、稲刈り完了の田んぼも目撃。  
暑い、暑いと文句を言える立場ではない。機械でなく、手作業の稲刈りだったようだ。

秋田県の民謡の文句が思い浮かんだ。米という字を分析すれば、  
八十八度<sup>たび</sup>の手がかかる。お米一粒、粗末に出来ぬ。米は、我らが親じゃもの。  
地球再発見。新しい発見や感動は、出会いから生じる。



車では、何度か通過しているが、今回は、ママチャリ。横道、脇道にも道草。  
相手が人であれ、自然であれ、書物であれ、出来事であれ、出会いが真性なものであるなら、  
心を開いていれば、気づきや発見、学びがある。

生きるに貪欲。無理は禁物だが、筋肉貯金も、出来る時に・・・

